

ペスタロッツ館コーナー

～催し物の案内・お知らせ～

博物館体験講座「石器を作ろう」

鏡野郷土博物館では、小学生・一般を対象に博物館体験講座を開催しています。

今回は10月1日（土）に「石器作り」を実施します。

硬い自然の石材を打ち割ったり、磨いたりして、原始時代の人が使っていた石庖丁や槍の先、やじり、アクセサリーなどを作ってみましょう。

興味のある方は是非チャレンジしてみてください。



博物館体験講座「石器を作ろう」

- 日 時：平成23年10月1日（土）
13：30～15：30
- 場 所：ペスタロッツ館2階 体験学習室
- 対 象：小学5・6年生 20名程度
- 申込方法：町内の小学生には学校を通じて申込書を配布します。
ペスタロッツ館入口にもあります。



【お問い合わせ先】鏡野町教育委員会 生涯学習課（担当：小椋） TEL.0868-54-7733 FAX.0868-54-3335
ペスタロッツ館は、月曜日と祝日、および月曜日が祝日のときの翌火曜日を休館させていただきます。

館長のガラストーク



「ウランガラスの世界」展の最後のエピソードとして、食卓を華やかに彩った「エパーン」を取り上げます。水盤の上に花が開いたようなこの形をみて、多くの人が「花瓶ですか?」「燭台ですか?」と質問されますが、これは最初から置物として作られています。もっとも、17世紀のフランスに登場した頃は、支柱に花や菓子、砂糖などを入れる受け皿がぶら下がったクリスマスツリーのようなものだったようです。

イギリスに渡ると、食べ物やようす取り皿のような役割をもつようになりますが、初めは卓上に盛られていた料理が、次第にコース料理となり、料理が出来た順に出てくるようになって食器としての役割が無くなり、単なる飾りとなったようです。

19世紀後半、ヴィクトリア朝のイギリスでさまざまな花の「エパーン」が沢山作られました。これは20世紀になってアメリカのフェントン社が作ったものです。乳白のオパールセントガラスで縁取りされた大輪の黄色い花を支えているのは、縁がやはり乳白のミルククラウンのように跳ね上がった皿状の台座です。ヴィクトリア朝の優雅で華やかな宴の賑わいが聞こえてくるようです。

7月12日に放映された「開運!なんでも鑑定団」で「ロシア皇帝のゴブレット」が紹介されたおかげで、入場者がぐんと増えた「ウランガラスの世界」展も今月の26日で終わりです。28日から新しい企画展が始まります。こちらもよろしくお願いします。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報> 「岡山のガラス作家たち Part.1 倉敷芸術大学を中心に」展
2011年9月28日（水）～2012年3月26日（月）

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話（0868）44-7888